

平素より、当メールマガジンを御愛読いただきありがとうございます。

肌寒い日も増えてまいりましたが、読者の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。風邪もはやっておりますので、体調にはお気をつけください。

さて、毎年この時期は地方運輸局による公共交通関係のシンポジウムが多数開催されており、今月号では、既に開催されたシンポジウムや勉強会についての報告の他に、11月に開催予定の東北・九州におけるシンポジウムについてご案内させていただいております。また、本省公共交通政策部長が講演を行う全国フォーラムについても紹介させていただいております。いずれも、ご都合が合えば、ぜひ足を運んでいただければと思います。

それでは、10月配信のメールマガジンは以下の内容でお送りいたします。

10月号目次

- 地域公共交通シンポジウム IN 弘前を開催します（東北運輸局）・・・ 2
- 「地域公共交通活性化シンポジウム2013 in 関東」を開催（関東運輸局）・・・ 3
- 「自治体交通担当者対象の地域公共交通勉強会」を開催！！～基礎編・応用編とも大好評～（中国運輸局広島運輸支局）・・・ 5
- 「地域公共交通のあり方を考えるシンポジウム2013 in 九州 ～地域公共交通の元気がまちの元気～」の開催について（九州運輸局）・・・ 7
- 「くらしの足をみんなで考える全国フォーラム2013」開催のお知らせ～「移動の問題」を本音で語り合おう、知り合おう～（くらしの足をみんなで考える全国フォーラム実行委員会）・・・ 9
- 編集後記・・・ 11



地域公共交通シンポジウム IN 弘前を開催します（東北運輸局）

東北運輸局は、地域に最適な公共交通（地域の足）を確保、維持、改善することが、地域にとって必要かつ重要であることから、国、地方自治体、事業者、地域をよく知る住民の方々の協働がいかに重要かを考えていただく機会として、「地域公共交通シンポジウム IN 弘前～みんなで考える地域の足～」を開催いたします。

皆さまのご参加をお待ちしております。

【シンポジウム】

日時 11月20日（水） 13:00～16:30

会場 ベストウェスタンホテルニューシティ弘前3階エメラルド
（青森県弘前市大町1丁目1番地2）

定員 150名（先着受付順・参加費無料）※当日参加も可能です。

プログラム

- ①開会挨拶（東北運輸局青森運輸支局長・千田等一）
- ②開催県挨拶（青森県企画政策部）
- ③国の施策説明（東北運輸局企画観光部交通企画課長・柳井和則）
- ④基調講演「コミュニティバス計画の要点」
（岩手県立大学総合政策学部教授・元田良孝氏）
- ⑤事例発表「官民一体となったバス事業の取り組みについて」
（北海道石狩郡当別町企画部長・増輪肇氏）

⑥トークセッション

〈パネリスト〉

岩手県立大学総合政策学部教授	元田良孝氏
青森市都市整備部交通政策課長	石郷昭規氏
弘前市都市環境部都市政策課長	鎌田雅人氏
大鰐町企画観光課長	前田克則氏
当別町企画部長	増輪肇氏
弘南バス（株）取締役乗合部長	福地順氏
弘前大学学生生活動団体H・O・T Managers 代表	大野悠貴氏

〈ファシリテーター〉

東北運輸局企画観光部長	吉田昭二
-------------	------

⑦閉会

【ポスターセッション】（同時開催）

日時 11月20日（水） 11:00～14:00

会場 ベストウェスタンホテルニューシティ弘前3階ロビー

※シンポジウムの内容を踏まえた内容で、青森県市町村公共交通担当者向けセミナーを、12月11日（水）、JR青森駅前ワラッセにて開催。

▼申込み方法につきましては、以下のURLからご確認ください。

<http://www.tb.mlit.go.jp/tohoku/index3.htm>

（シンポジウムチラシ10月末UP）

【お問合せ・お申し込み先】

東北運輸局企画観光部交通企画

TEL 022(791)7507 FAX 022(791)7538

▼内容は変更になる場合があります。ご注意ください。

「地域公共交通活性化シンポジウム2013 in 関東」を開催（関東運輸局）



原局長による挨拶

関東運輸局では、10月17日（木）、サントリーホール 小ホール（東京都港区）において、「地域公共交通活性化シンポジウム2013 in 関東」を開催しました。当日は、横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院長・教授の中村文彦氏による基調講演、全国の地域公共交通の事例発表、『様々な分野の関係者が一体となって進める地域公共交通の活性化』をテーマとしたパネル

ディスカッションが行われました。全国の地方自治体、交通事業者等を中心に合計301名の皆様に

参加して頂きました。

はじめに、原局長よりご挨拶頂き、続いて、横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院長・教授の中村文彦氏により『なぜ“今”公共交通が大切なのか』についての基調講演が行われました。

基調講演の後、全国の地域公共交通に関する顕著な取組（かしてつ沿線地域公共交通戦略会議、上田電鉄株式会社、岐阜県岐阜市、兵庫県豊岡市）の事例発表が行われました。

かしてつ沿線地域公共交通戦略会議（茨城県石岡市市長公室政策企画課 課長補佐）の

塩畑浩行氏からは、『鹿島鉄道跡地バス専用道化事業について』と題しまして、鉄道跡地をバス専用道として有効活用し、民間会社が定時性と速達性のあるバスを運行する公設民営によるBRT事業とその利用状況・効果等についてご紹介頂きました。

上田電鉄株式会社代表取締役社長の角田朗一氏からは、『別所線の活性化・再生に向けた取組について』と題しまして、別所線の概要、他企業と連携した企画切符等の利用促進や、観光・イベントによる活性化の取組、ご自身の経験と公共交通活の活性化に対する思いについてお話し頂きました。

岐阜県岐阜市企画部交通総合政策課長の青木保親氏からは、『42万都市をバスで支える交通政策の取組』と題しまして、幹線・支線バスとコミュニティバスが連携した公共交通ネットワークの構築、定時性・速達性及び利便性の向上



中村院長による基調講演

を目指したBRTの導入、地域住民が主体となった市民協働の手づくりのコミュニティバスの運行、公共交通の利用促進の取組等についてご紹介頂きました。

兵庫県豊岡市都市整備部都市整備課交通政策係の宇野友喜氏からは、『「負の連鎖」からの脱却～全但バス神鍋線の挑戦～』と題しまして、路線バスの利用者減、収支悪化、減便という悪循環（負の連鎖）を断ち切るための社会実験（利用者負担を軽減しつつ、利便性向上させた路線バスの実証運行）の実施、公共交通利用促進のためのキャンペーン等の取組についてご紹介頂きました。



事例発表中の会場の様子

パネルディスカッションでは、基調講演に引き続き中村文彦氏をモデレーターにお迎えし、『様々な分野の関係者が一体となって進める地域公共交通の活性化』をテーマに、地方自治体からは千葉県南房総市総務部総務課（関東運輸局地域公共交通マイスター）の畠田紀之氏、交通事業者からは西武バス株式会社総合企画部経営企画室長兼課長（経営企画担当）の関根康洋氏をパネリストにお迎えするとともに、関東運輸局から金子企画観光部長が参画し、ご議論頂きました。パネリストからは、「公共交通はまちづくり。自治体が戦略を示すことが重要。まちづくりをするプランナーとして、演出家として、自治体が説明責任を持たなければいけない。」（南房総市畠田氏）、「路線バスは地域性につける。隣接自治体の連携が不可欠であり、役割分担と連携がとても大事。どの役割の人が、どういうことをやるかということをしつこく見極めながら、出来ることについて連携していくことが重要。」（西武バス株式会社関根氏）、「関係者がそれぞれの立場、役割についてお互いに感謝するところからスタートできれば、話はスムーズに進むのではないかと期待している。日ごろから皆さんの話をお伺いできる、相談しやすい関東運輸局を目指していきたいと思っている。」（金子企画観光部長）、といったお考えを述べて頂きました。モデレーターの中村文彦氏からは、「公共交通を考える関係者が、その役割の中で更に連携することがその先の繋がりとなり、今あるものをうまく生かしながら次に繋げて行くという考えを持つこと。また、住民を主役にしていくためのきっかけとなるよう、自分たちが育てることができるという良い意味での成功体験を少しずつ重ねていくことで、その先へ動くのではないかと思います。」とのまとめを頂きました。



パネルディスカッションの様子

シンポジウム終了後のアンケートでは、シンポジウムの満足度について回答者の97%の方に「参考になった」とお答え頂きました。関東運輸局では、今後も関係者の皆様にも、シンポジウムなどを通じて様々な情報提供ができるよう努めて参ります。

「自治体交通担当者対象の地域公共交通勉強会」を開催！！
～基礎編・応用編とも大好評～（中国運輸局広島運輸支局）

中国運輸局広島運輸支局では、自治体交通担当者の人材育成に資する取組として、交通政策を検討する上で必要となる知識の習得、同様の課題を持つ自治体間の連携強化等を目指して平成24年度より「地域公共交通勉強会」を行っています。

平成25年度においても米子工業高等専門学校に加藤先生をコーディネーターにお招きして、9月13日に基礎編、10月21日に応用編という2部構成で実施し、基礎編には17自治体26名、応用編には13自治体17名の方にご参加頂きました。

《9月13日：基礎編 場所：中国運輸局会議室》

①支局から道路運送法の基礎知識、自治体が事業計画や運行計画を検討する際のポイント、地域公共交通会議等を活用して地域の交通を考えていくことの重要性などを中心に説明。

②加藤先生のコーディネートのもと、三次市から、地域公共交通会議等の制度をうまく活用した地域全体のネットワーク形成の重要性等について事例紹介。

次に、コンサルタントから、大竹市の事例を参考に地域住民との関係性の結び方・住民の力の引き出し方など地域への効果的なアプローチ方法等について事例紹介。

③事例を基にした意見交換では、目標や評価に対する考え方や、住民だけでなく事業者との関係に関する悩みなど、参加された自治体交通担当者から活発な発言があり、それに対し、加藤先生や支局からアドバイスするなど、有意義な意見交換が行われた。また、参加自治体が抱えている課題・悩みを共有することで、今後、自治体同士の横の連携に繋がっていくことが期待される。



《10月21日：応用編 場所：庄原市「道の駅たかの」》

①応用編では、広島県庄原市にある「道の駅たかの」にて実施し、合わせて公共交通を利用して口和地区の結節点を視察。



「道の駅たかの」は松江自動車道（中国横断自動車道尾道松江線）高野ICに直結しており、平成25年4月から松江自動車道経由の高速バスの停留所となったため、高野から広島方面や松江・出雲方面への移動が便利になっています。庄原市ではそれに合わせて、一般路線バスや地域内のデマンド交通なども合わせて「道の駅たかの」を経由するように交通再編を行い、また、パーク＆ライド用の駐車場を整備するなど交通結節点を活用した地域公共交通確保維持改善・地域活性化を目指している。

②視察後、交通事業者より北広島町のデマンド交通（ホープタクシー）の事例を基に、交通事業者の考える公共交通のあり方等について、地域を守るという使命感と熱意を込めて講演。

③視察や講演を踏まえた意見交換では、事業者に対する補助や委託のあり方など、参加自治体全ての担当者から質問や感想があり、加藤先生や交通事業者より具体的なアドバイスを行った。今回の意見交換では活発な発言があったことから、予定時間をオーバーする熱い意見交換となった。



また、今回は広島県と島根県の県境である庄原市で開催したことから、島根県側の隣接する自治体からの参加もあり、県をまたいだ交通需要に対応するための自治体間の連携にもつながるのではないかと期待している。

今後、このような行政区域を超えた取組を行っていくことも国の役割として重要なのではないかと感じている。

《最後に》

中国運輸局広島運輸支局では、このような勉強会を継続して開催していくこととしており、将来的にはこの勉強会で扱った内容をとりまとめ、自治体交通担当者がマニュアルとして使うことが出来るような成果物の作成を目指しています。

それぞれの自治体が得た知識などを他の自治体が活用できるようにすることにより、交通政策の検討に資するよう、また、人事異動で担当が変わってもわかりやすく、すぐに使えるようなものを目指して今後も努力していきたいと考えています。

日常業務に忙殺される日々ですが、自治体の皆様から評価頂いているこの勉強会を、支局の最重要業務の一つとして、今後も継続して取り組んで参ります。

「地域公共交通のあり方を考えるシンポジウム2013 in九州 ～地域公共交通の元気がまちの元気～」の開催について（九州運輸局）

地域公共交通は、地域の経済社会活動の基盤であり、高齢者・通学者等の移動手段の確保を担うものとして、また、低炭素社会の実現に寄与する環境に優しい輸送機関として、重要な役割を担っていますが、地域公共交通を取り巻く環境は依然として厳しいものがあります。

こうした状況の中で、地域公共交通の確保、維持、改善を図るためには、まちづくりなどの交通以外の分野との連携を深めていくことがこれまで以上に求められており、地域の人々が一体となって地域公共交通を元気にすることで、人々が暮らすまちもまた元気になることが期待されます。

九州運輸局では、九州地方整備局と連携し、九州を含む全国の様々な先進的取組や、その背景にある考え方をご紹介します。パネルディスカッションを通じた意見交換を行うことで、地域公共交通のあり方に関する議論と理解を深め、それぞれの地域に相応しい地域公共交通の構築に向けた取組がいつそう進むことを期して、標記シンポジウムを開催します。

日 時 平成25年11月28日（木） 13:00～17:00
会 場 グランドハイアット福岡3F グランド・ボール・ルーム
福岡市博多区住吉1-2-82
定 員 320名程度（参加費無料）

<内容>

○基調講演〈平成25年度地域公共交通優良団体大臣表彰 記念講演〉

『ふる里の暮らしを支える公共交通 ～八女市予約型乗合タクシーの取り組み～』

福岡県八女市 総務部地域支援課 参事補佐兼交通対策係長 松尾 一秋氏

○事例紹介

『お客さま密着！で地域に貢献する十勝バスの取組み ～40年ぶりの利用者増加の実例～』

十勝バス株式会社（北海道帯広市）代表取締役社長 野村 文吾氏

『ローカル鉄道と地域の活性化』

由利高原鉄道株式会社（秋田県由利本荘市）代表取締役社長 春田 啓郎氏

『人口減少・高齢化社会に向けたスマートウエルネスの視点によるまちづくり』

新潟県三条市 福祉保健部 福祉課 スマートウエルネス推進室主任
池野 泰文氏

○パネルディスカッション

コーディネーター

福岡大学工学部社会デザイン工学科教授 辰巳 浩氏

パネリスト

福岡県八女市 総務部 地域支援課 参事補佐兼交通対策係長 松尾 一秋氏
 十勝バス株式会社 代表取締役社長 野村 文吾氏
 由利高原鉄道株式会社 代表取締役社長 春田 啓郎氏
 新潟県三条市 福祉保健部 福祉課 スマートウエルネス推進室主任 池野 泰文氏
 大分大学経済学部経営システム学科准教授 大井 尚司氏

▼募集等につきましては、九州運輸局のHPにてご確認ください。
<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/2013-1025-kotuu.htm>
 ※パンフレットについてはメールにも添付させていただいております。

**地域公共交通のあり方を考える
シンポジウム2013 in 九州**
 ~地域公共交通の元気がまちの元気~

平成25年 **11月28日**(木)
 13:00~17:00

会場 **グランドハイアット福岡 3F
 グランド・ホールルーム**
 福岡市博多区住吉 1-2-82
 TEL.092-282-1234(代表)

【主催】国土交通省 九州運輸局・九州地方整備局

開催趣旨

地域公共交通は、地域の経済社会活動の基盤であり、高齢者・障害者等の移動手段の確保を担うものとして、また、低炭素社会の実現に寄与する環境に優しい輸送機関として、重要な役割を担っています。地域公共交通を取り巻く環境は依然として厳しいものがあります。

こうした状況の中で、地域公共交通の確保、維持、改善を図るためには、まちづくりなどの交通以外の分野との連携を深めていくことがこれまで以上に求められており、地域の人々が一体となって地域公共交通を元気にすることで、人々が暮らすまちもまた元気になることが期待されます。

今年度のシンポジウムは、九州を巡り全国の様々な先進的取組や、その背景にある考え方を紹介し、「パネルディスカッション」を通じた意見交換を行うことで、地域公共交通のあり方に関する課題と対策を認め、それぞれの地域に相応しい地域公共交通の構築に向けた取組が、いっそう進むことを期待して開催するものです。

プログラム

13:00 (5分)	開会挨拶 九州運輸局長	15:05 (40分)	「人口減少・高齢化社会に向けたスマートウエルネスの視点によるまちづくり」 新潟県三条市 福祉保健部 福祉課 スマートウエルネス推進室主任 池野 泰文氏
13:05 (40分)	基調講演 「ふる里の暮らしを支える公共交通 ～八女市予約型乗合タクシーの取組編み～」 (平成25年度地域公共交通推進団体大賞表彰 記念講演) 福岡県八女市 総務部 地域支援課 参事補佐兼交通対策係長 松尾 一秋氏	15:45 (10分)	休憩
	全国の地域公共交通の活性化事例発表	15:55 (60分)	パネルディスカッション テーマ「地域公共交通の元気がまちの元気」 コーディネーター 福岡大学工学部社会デザイン工学科教授 飯田 浩氏
13:45 (40分)	「お住まいを基盤で地域を創る十勝」(Cの取組) ～40年ぶりの利用者増加の実例～ 十勝バス株式会社(北海道厚岸市) 代表取締役社長 野村 文吾氏		パネルディスカッション コーディネーター 福岡大学工学部社会デザイン工学科教授 飯田 浩氏 十勝バス株式会社 代表取締役社長 野村 文吾氏 由利高原鉄道株式会社 代表取締役社長 春田 啓郎氏 新潟県三条市 福祉保健部 福祉課 スマートウエルネス推進室主任 池野 泰文氏 大分大学経済学部経営システム学科准教授 大井 尚司氏
14:25 (40分)	「ローカル鉄道と地域の活性化」 由利高原鉄道株式会社(秋田県由利本荘市) 代表取締役社長 春田 啓郎氏	16:55 (5分)	閉会挨拶 九州地方整備局 建設部 都市調整官

参加申し込み要領

開催日時 11月28日(木) 13:00～17:00(受付開始)

定員 20名程度

申し込み方法
 ●申し込みの要領 下記URLから申し込み用紙をダウンロードしてください。
<http://gokkokuoost.mlit.go.jp>
 ●申し込みの要領 下記URLから申し込み用紙をダウンロードしてください。
<http://gokkokuoost.mlit.go.jp>

お問い合わせ 九州運輸局 総務部 参事補佐兼交通対策係長 飯田 浩氏
 TEL.092-472-2315 FAX.092-472-2334

会場(グランドハイアット福岡)アクセス

参加申込書

ご所属	電話番号
メールアドレス	お名前
お名前	お名前

※お申し込みに関して、記載された個人情報等は、本シンポジウム以外の目的で使用することはありません。

FAX.092-472-2334

**「くらしの足をみんなで考える全国フォーラム2013」開催のお知らせ
～「移動の問題」を本音で語り合おう、知り合おう～（くらしの足をみんな
で考える全国フォーラム実行委員会）**

わが国では少子高齢化が進む中で、全国に過疎地域や被災地が拡大し、移動の手段を持たない高齢者など、命を守る通院や日常の買い物に困難を抱える人々が増え続けています。

この問題を解決するために、問題を抱える当事者、行政・社協職員、研究者、福祉・介護・医療の従事者、バス・タクシー事業者、NPOなど、多くの関係者が集まり、地域を超え、立場を超え、利用者と生活者の立場に立って「移動の問題」を本音で語り合い、お互いを知り合い、解決策のヒントを得る「気づき」の場として、福祉や公共交通関係者の頑張りを促すために、本全国フォーラムを開催します。

日 時 平成25年11月24日（日）9：45～16：30
（受付開始9：15）

会 場 東京大学本郷キャンパス工学部 2号館内
〒113-8656 文京区本郷7-3-1

参加費 3,000円（当日会場でお支払いください）

参加対象者 それぞれの地域で、移動の問題を何とかしたいと考えている方々

〈主催〉くらしの足をみんなで考える全国フォーラム実行委員会

〈後援〉国土交通省、交通エコロジー・モビリティ財団、日本バス協会、
全国ハイヤー・タクシー連合会、全国福祉輸送サービス協会、
全国移動サービスネットワーク、市民福祉団体全国協議会、
東京交通新聞社（申請中を含む）

プログラム（予定）

【基調講演】

●おでかけを守る交通攻略のツボ

吉田 樹 氏（福島大学准教授）

●地域公共交通の課題について

藤井 直樹（国土交通省公共交通政策部長）

◎白熱討論

・小嶋 光信 氏（一般財団法人地域公共交通総合研究所理事長（代表理事）
兼両備グループ代表・CEO）

・鎌田 実 氏（東京大学教授）

・加藤 博和 氏（名古屋大学准教授）

【ポスターセッション】

くらしの足を支えるサービス提供や制度利用に関する国内各地の実施例について、ポスターパネルを設置して、発表者とフォーラム参加者との個別の意見交換、交流の場を設けます。

【テーマ別セッション】

- 暮らしの足を支える新しいサービス
座長：宮崎 耕輔 氏（香川高専准教授）
- 過疎地、被災地の暮らしの足
座長：鳩山 紀一郎 氏（東京大学講師）
- 暮らしの足を広げる制度や施策
座長：大森 宣暁 氏（東京大学准教授）

全国フォーラム実行委員会委員

- 鎌田 実 氏（東京大学）* 実行委員長
- 加藤 博和 氏（名古屋大学）* 副実行委員長
- 吉田 樹 氏（福島大学）
- 宮崎 耕輔 氏（香川高等専門学校）
- 鳶田 紀之 氏（千葉県南房総市）
- 松本 邦弘 氏（イーグルバス(株)）
- 及川 孝 氏（全国子育てタクシー協会・(有)フタバタクシー）
- 黒田 司郎 氏（堺相互タクシー(株)）
- 貞包 健一 氏（(有)三ヶ森タクシー）
- 篠原 俊正 氏（(株)ハートフルタクシー）
- 武本 英之 氏（(株)東京交通新聞社）
- 清野 吉光 氏（(株)システムオリジン）
- 田中 尚輝 氏（(特非)市民福祉団体全国協議会）
- 河崎 民子 氏（(特非)全国移動サービスネットワーク）
- 清水 弘子 氏（(特非)かながわ福祉移動サービスネットワーク）
- 鬼塚 正徳 氏（(特非)せたがや移動ケア）

▼参加申し込み・お問い合わせ先

暮らしの足をみんなで考える全国フォーラム実行委員会事務局

(Tel) 03-3304-5227 (Fax) 03-3304-5227

(E-mail) hasiraserukai@hasiraserukai.com

〒156-0056 東京都世田谷区八幡山1-7-6 せたがや移動ケア
事務局内

東京交通新聞社(交通事業者関係窓口)

(Tel) 03-3352-2181 (Fax) 03-3352-2186

(E-mail) hen@toukou-np.co.jp

〒160-0022 東京都新宿区新宿2-13-10 武蔵野ビル内

▼ご案内チラシ、申込書は下記からお願いします。

<http://zenkokuforum.jimdo.com/>

編集後記

いつもご愛読いただきありがとうございます。国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課の中村です。

8月号の編集後記において、伊豆大島に旅行に行ってきたということを書かせていただいておりますが、先日の台風で甚大な被害を受けている様子をニュースで知り、あんなに穏やかだった海や山が一変して人命を奪っていく姿に、改めて災害の恐ろしさを痛感いたしました。1日も早く復旧し、被災された全ての方々が日常生活に戻ることを願ってやみません。

私の父の実家は石川県輪島市にあるのですが、新潟県中越沖地震や東日本大震災により、海岸の姿が大きく変わってしまいました。直接何か被害を受けたわけではありませんでしたが、小さい頃遊んだ砂浜が無くなってしまい、非常に寂しい思いをしたものです。

ところで、その輪島市で、日本各地と韓国から海女さん約160人(!)が集結する「海女サミット」なるものが開催されたことを皆さんご存じでしょうか？てっきりNHKの連続ドラマ小説「あまちゃん」の人気にあやかったものかと思いきや、なんと今回で4回目なのだそうです。(これまでは三重県鳥羽市、志摩市を中心に開催されています。ちなみに日本の海女人口1位は三重県、2位は石川県なのだそうです。)将来的にはユネスコの無形文化遺産への海女文化の登録を目指しているとのことですので、今後の動向にぜひ注目してみてください！(次回サミットに参加される際は公共交通機関の積極的な利用をお願いいたします！)

★全国に共有したい情報等ございましたら、下記問い合わせ先または最寄りの地方運輸局企画観光部交通企画課まで御連絡ください。

【問い合わせ先】

国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課 中村

〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3(中央合同庁舎3号館3階)

TEL : 03-5253-8274(直通) FAX : 03-5253-1513

E-mail : koutukeikaku_joho@mlit.go.jp

国土交通省HP(情報発信のページ) :

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000039.html

国土交通省総合政策局公共交通政策部ゆるきゃら のりたろう

